

児童発達支援自己評価表(事業者向け)

評価実施期間令和8年3月3日から令和8年3月17日

母体数14名
回収率100%

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	評価者からのコメント
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%(14人)			グループ分けしている
	2	職員の配置数は適切であるか	100%(14人)			何かあった時でも調整が可能である。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	86%(12人)	14%(2人)		夏場に実施している屋外プールにおいては、もう少し設備の改善が欲しい。エレベーターはあるが使用できないためバリアフリー化はされていない。
	コメントに対する回答又は対応	①夏場のプール利用について、排水環境と安全対策上現在の2階のテラスで実施せざるを得ません。転倒等事故発生には留意します。現在の環境で行うことにご理解下さい。②エレベーターの可動復帰については、令和2年当時の工事費見積もりが高額なため、現在も実現できていません。2階で行われている児童発達支援へのアプローチは施設東側にスロープを利用いたします。				
環境・体制整備	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%(14人)			定期的に床面などの清掃がもう少しできた方が良いと思う。空気清浄機があればもっと良いと思う。
	コメントに対する回答又は対応	令和8年度から月1回のクリーンタイムを行い、定期的な清掃活動を行います。				
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	79%(11人)	7%(1人)	14%(2人)	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%(14人)			療育の都度コミュニケーションが図れている。リーダーミーティングで細かく検討している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	86%(12人)	7%(1人)	7%(1人)	結果の公開ができていない。
	コメントに対する回答又は対応	事業所向け自己評価及び保護者向け評価は、1回掲示板及び峇岐こどもセンターHPで情報公開しています。				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	21%(3人)	65%(9人)	14%(2人)	実施するとお金も時間も要するので今は必要性を感じていない。
コメントに対する回答又は対応	第三者評価は費用が発生するので行っていません。事業所が行っている情報公開は保護者同伴児童発達支援を行っているのので、随時公開を行っています。					
適切な支援の提供	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%(14人)			必要な研修を受講したりできたりしている。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%(14人)			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	86%(12人)	14%(2人)		決まったツールを用いて評価している。アセスメントツールが分からない
	コメントに対する回答又は対応	アセスメントツールは5領域20項目の調査評価と感覚特性アセスメントに基づき行っています。				
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	93%(13人)	7%(1人)		具体的な支援内容がわかりにくいところがある。
	コメントに対する回答又は対応	より具体的な支援が分かりやすい個別支援計画作成について検討中です。それまでは児童発達支援開始前の事前ミーティングで具体的な支援内容を口頭で説明します。				

	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%(14人)			支援が統一されているか、支援内容の意図が伝わっているか把握と確認が必要。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	86%(12人)	14%(2人)		リーダー立案したものを全職員で協議し、統一を図っている。・主にリーダーが立っている。	
コメントに対する回答又は対応		活動プログラムは今後も主にリーダー中心で立案していきますが、各職員からの意見等も参考にさせていただきます。気づきの点があれば、リーダーに申しつけて下さい。					
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%(14人)			年間計画を立案し同じものに偏らないようにしている。固定化しては無いが興味のもてる活動になるように心掛けている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	93%(13人)	7%(1人)		子どもの姿から今回は個別活動を行っていない。同じ活動の中でそれぞれねらいが違うことを事前ミーティングで伝えて実行している。	
コメントに対する回答又は対応		子どもの姿に反映されていない、個別活動があれば、具体的にリーダーに申しつけて下さい。					
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%(14人)			前回の内容を情報収集するとともに、当日、事前打ち合わせを行い役割分担の確認をしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	100%(14人)			当日、支援終了後にミーティングして振り返り、気づきを出し合い次回のために記録に残している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%(14人)			日々の支援に関する記録を徹底し、今後展開する支援につながるよう取り組んでいる。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%(14人)			年2回、実施している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%(14人)				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	100%(14人)				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	対象者なく評価できず。				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					
		25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%(14人)			必要時、見学に行ったり、向こうから来たりと情報共有が図れている。
		26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	79%(11人)	7%(1人)	14%(2人)	
	コメントに対する回答又は対応		小学校へ入学される児童発達支援利用者については、支援内容等の情報共有を行っていますので、確認ください。				
		27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%(14人)			適時おこなっている。
		28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	79%(11人)	7%(1人)	14%(2人)	自立支援協議会子ども部会には児童発達支援事業所としては参加できていない。地域の子ども・子育て会議等は参加できていないが、議題や検討事項についてまとめた書類を供覧している。
	コメントに対する回答又は対応		今年度は児童発達支援事業所としての参加はできていません。				
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%(14人)			療育の都度、コミュニケーションを取り共通理解に努めている。課題に対し、伝え方やタイミングに配慮して対応している。	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	86%(12人)	7%(1人)	7%(1人)		
コメントに対する回答又は対応		保護者同伴による児童発達支援事業を行い、スタッフが児童と関わる場面を見てもらい関わり方のヒントにしてもらい、更に各職種と保護者との個別面接時間(ホットタイム)や児童発達支援中でも適時悩みを聞き、保護者が児童に対してどのように関われば良いか支援しています。					
	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	93%(13人)		7%(1人)		

保護者への説明責任等	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%(14人)			
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%(14人)			定期的に面談を行い相談に応じている。必要な次元が伝えられているが自信が持てない。悩みに寄り添い必要であれば関係機関につないでいる。ホットタイムで時間を作っている
	34	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%(14人)			3月に開催予定、保護者間の連携も支援の一環である。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%(14人)			適宜おこなっている。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%(14人)			会報などは発行していないが、子供や保護者が分かるように表示したり明示したりしている。次回の連絡をボードに書き損ずることがあったので忘れないように配慮する。
非常時等の対応	38	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%(14人)			
	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	79%(11人)	21%(3人)		必要に応じ実施している。毎年マニュアルの周知・確認が必要であると思うができていない。マニュアルの策定に伴い感染症対策等の研修や避難訓練を行った。保護者に周知されていない。
	コメントに対する回答又は対応	現在あるマニュアルを再確認し、職員と保護者に周知します。				
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%(14人)			訓練は行っているが、その都度方法が変わる。
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100%(14人)			各グループリーダーに依頼し、看護師が確認を行っている。要確認事項は保護者と直接面接を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%(14人)			必要時は情報共有し対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	79%(11人)	21%(3人)		現在は、事例集は作成していないが、ヒヤッとしたことがあった場合には朝礼やミーティングなどで情報を共有している。ヒヤリハットの基準が不明瞭気味いたらあげていくべき。危険と思われることの報告は、朝礼で伝え、必要に応じて話し合いの機会を設けている。療育後のミーティングで報告されていては全員には周知されていない。危険を回避する為に共有が必要。
コメントに対する回答又は対応	ヒヤリハット事例を記録に残すことを徹底し、随時検証していきます。					
44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	93%(13人)	7%(1人)		年に数回研修会を実施している。3月末に研修	
コメントに対する回答又は対応	虐待を防止研修会会議録を作成します。					
45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	86%(12人)		14%(2人)	必要時は個別対応する。身体拘束が必要な利用者がいない。今回は検討を要するケースはなかった。行う場合保護者に確認をとるようにする。	

○この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。
「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。